

バンクーバー便り 14

バンクーバー時間：2023年9月22日(金)午前7時30分

日本時間：2023年9月22日(金)午後11時30分

皆さんこんにちは。時間のたつのは早いもので、9月も終わろうとしています。北米では9月が入学・新学期の始まる月です。カナダも9月始まりで、“ピカピカの一年生”が集まってきます。娘は9月から John Henderson (JH) Elementary School の grade 2 になりました。新学期に新しいクラスや先生と出会うことは、子ども達にとって楽しみでもあり、一方で子ども達に不安や緊張を体験させる事態でもあります。このことを考慮してか、Social Emotional Learning (SEL)が夏休み終了後4日間(火曜日～金曜日、月曜日は Labor Day で祝日)設けられていました。この期間に旧担任と旧クラスの子ども達が新学期に向けた“慣らし運転”をします。長期休暇から学校生活へ子ども達がスムーズに転換できるようにするためと、学生の様子から新クラスや新担任の選別を学校側が考えるための期間のようです。さらに、SEL 期間に次のクラスのイメージを作る、いわば認知的リハーサルにもなっています。これはとても良い制度と思いました。日本では不登校の始まりが長期休暇明けからであることを考えると、SEL が新学期のストレスを少しでも緩和することに役立ち、子ども達の不登校の防止にも役立つと思います。昼食は手持ち弁当で、希望によって学校にランチを準備(有料)してもらうこともできます。親は子どもが12歳までは登下校時の drop off/pick up をしなければなりません。当初、手間のかかることとと思っていましたが、迎えに行った時に子ども達が親を見つけて飛び込んでくる様子は、家族と子どもの絆を確認できる素晴らしい瞬間だと思います。

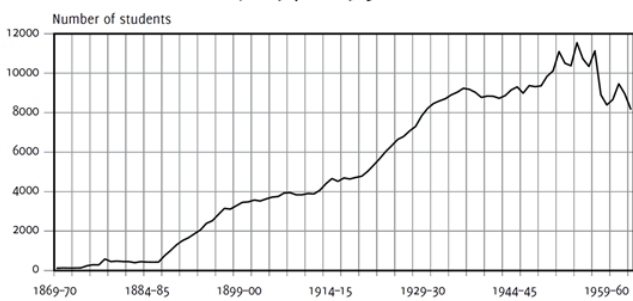
バンクーバーの学校について知らないことも多いのですが、娘が土曜日に通う日本語補習校は地元の Sir Charles Tupper (SCT) Secondary School の校舎を借用していますので、学校の様子が垣間見えてきます。また、私たち家族の友人の姪御さんが夏休みに来加し、9月から地元の Sir Winston Churchill (SWC) Secondary School に入学しました。3つの学校に共通することはキャンパスがとにかく広く、校舎は平屋か高くても2、3階までの無粋な箱型、全般に近代的とは言えない施設、そして緑豊かな公園に囲まれています。各学校には標語が壁のいたるところに掲げられています。JH の標語は、Learn from your experiences(自らの体験から学べ) / Be humble(謙虚であれ) / Be honest with yourself(己に正直であれ) / Love(愛せよ) / Take care of yourself(己を大切にせよ) / Strengthen your inner muscles(内なる力を鍛えよ)でした。()内は私の勝手な意識です。SWC は国際バカロレア教育校の一つであるためか、標語は Be kind(親切であれ) / Work hard(懸命に努めよ) / Smile often(できるだけ笑顔を) / Stay loyal(いつも誠実であれ) / Keep honest(正直さを貫け) / Tend when possible(できるときには手助けを) / Never stop(決してあきらめるな) / Learning(学び続けよ) / Be thankful always(常に感謝を持て) and Love(愛せよ)と表示されています。SCT の標語は ROAR(おたけび) : Respect / Ownership / Attitude / Responsibility / Safe です。

JH の bell schedule(時間割)は、登校日は月～金曜日で毎日始業9時、10時30分～10時50分 recess(休憩時間、snack time も含まれています)、10時50分～12時10分授業、12時10分～12時57分 lunch break(昼食休憩)、12時57分～15時3分授業、15時3分 dismissal(下校)となっています。一方、Secondary school は grade 8~10 または 12 の学生が集まる学校で、日本の中学・高等学校に相当しています。SWC の bell schedule は、登校日は月～金曜日の8時40分～15時5分、60分か80分授業が1日4block(コマ)、break(休憩時間)5分、lunch(昼休憩)11時30分～12

時 15 分、40 分の FIT(ホームルームのような時間)が月火木金に 1 コマ/日、という時間割になっています。Block の内容は個々人で異なり、各自が科目を登録して決めるためクラスはありません。休憩の 5 分間は教室移動のための時間のようです。となると結構ハードなスケジュールで、小学校のゆとり教育とは正反対のガチガチ教育です。

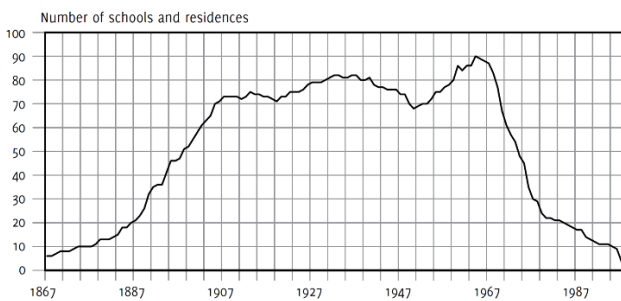
国が変われば生活習慣や風土が変わり、教育制度も変わるのが当然ですが、大切なことはその基本にある教育の考え方です。カナダでは能力中心主義の教育が基本にあると思います。しかし、カナダの歴史の中で、先住民の子ども達を白人文化に同化させるため政府と主にカトリック教会が共同運用した Indigenous Residential School (先住民寄宿学校)で極端に厳格な教育が行われ、家族からも隔離された中で多くの子ども達が命を落としたという歴史があります。LM モンゴメリーの長編小説『赤毛のアン』(村岡花子訳)を下敷きに、カナダ TV 局 CBC と Netflix の共同制作した TV ドラマ『E のつく少女アン Anne with an E』が NHK で放送され、シリーズ 3 で突然中断しましたが、このドラマの中にも寄宿学校が描かれていました。この寄宿学校制度は 1951 年まで存続しましたが、この制度は文化的ジェノサイドと結論付けられて政府や教会は正式に謝罪し、この負の歴史の反省から、現在のカナダの教育制度が生まれていることを考えると、強制的・威圧的な教育を廃して自由で能力を尊重する教育に転換したことも自然な流れであったかもしれません。

Graph 1
Residential school enrolment, 1869-70 to 1965-66



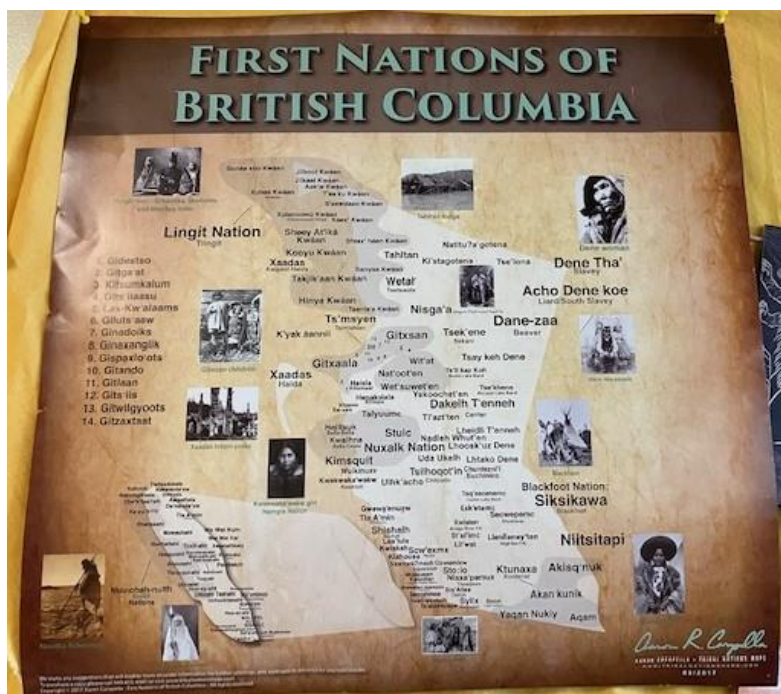
Source: Indian Affairs and Northern Affairs annual reports. After the 1965-66 school year, Indian Affairs stopped reporting on annual residential school enrolment.

Graph 2
Number of residential schools and residences, 1867-1998



Source: Indian and Northern Affairs Canada, Indian Residential Schools of the Indian Residential Schools Settlement Agreement 2011.

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より



JH 小学校に掲示してある BC 州の先住民マップ



JH 小学校へのプロムナードと初紅葉

